

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	原価計算論B (Cost Accounting B)		授業コード	E043551
担当教員名	工藤 順一		科目ナンバリングコード	E20605
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	原価計算論Bでは、原価計算論Aの授業を受けて、総合原価計算を学習します。皆さんが就職を希望している自動車産業や食品産業等の大手の製造業では、この総合原価計算を採用しています。将来の就職を意識して、その時に備えるつもりでこの原価計算に取り組んでみてください。			
受講心得	1. 毎回必ず出席してください(欠席すると講義がまったく理解できなくなる恐れがあります)。 2. 電卓を必ず持参してください。 3. 指定されたテキストを必ず購入してください。			
教科書	TAC簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記2級工業簿記Ver. 6.0』TAC出版			
参考文献及び指定図書	随時紹介します。			
関連科目	簿記入門、管理会計論、監査論			

授業の目的	同じ規格の製品を連続して大量に生産する「総合原価計算」では、製品の原価は個別に計算せず、1ヶ月ごとにまとめて計算します。そこで、総合原価計算では、1ヶ月間に製品を生産するのに要した製造原価をまとめて計算し、1ヶ月間の生産量で割ることによって製品1個当たりの原価を計算します。本講義では、「大量見込生産」を行う工企業において用いられる原価の計算方法を学び、それらの原価(コスト)を下げるにはどうしたらよいか等を理解していただけるようにしたいと考えています。
授業の概要	授業は、テキスト、レジュメを中心に進めます。また、次回の授業の最初に、復習の意味で、前回講義の練習問題を解いていただく形で進めていきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：総合原価計算の定義 個別受注生産形態の企業について適用される個別原価計算に対して、大量生産の企業に適用される原価計算が総合原価計算になります。二つを比較して学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第2週：単純総合原価計算の計算 総合原価計算のうち、1種類の製品を連続して大量に生産する企業を前提にそれらの企業が採用している原価計算方法である「単純総合原価計算」について学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第3週：月末仕掛品原価と完成品原価の計算 総合原価計算では、月末仕掛品が存在する場合、先に月末仕掛品原価を計算し、これを当月製造費用から差し引いて、残額を完成品原価とします。このため月末仕掛品原価の計算が重要です。	配布資料 演習の課題と解答例
第4週：月末仕掛品原価の計算(1) 月末仕掛品の評価について、直接材料費と加工費に分けて計算します。加工費においては、仕上がり具合につい進捗(しんちよく)度、完成品換算数量という考え方を学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第5週：月末仕掛品原価の計算(2) 月末仕掛品がある場合の原価の計算方法について、平均法、先入先出法を学習します。時間があれば後入先出法についても学習していきます。	配布資料 演習の課題と解答例
第6週：工程別総合原価計算 企業のよっては、製品の製造を2つ以上の工程によつ行う場合があります。その工程ごとに原価を計算する方法(工程別総合原価計算)についてみていきます。	配布資料 演習の課題と解答例
第7週：組別総合原価計算 同一工場内で種類の異なる2種類以上の製品を連続して大量に生産する企業で用いられる、組別総合原価計算について学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第8週：等級別総合原価計算	

<p>等級別総合原価計算とは、たとえば、TシャツのようにS、M、Lといったサイズが異なる製品を連続して大量に生産する企業で用いられている総合原価計算です。等価係数について学習します。</p>	<p>配布資料 演習の課題と解答例</p>							
<p>第9週：標準原価計算 標準原価計算について学習していきます。標準原価計算は、伝統的に原価管理の1手法として考えられてきました。</p>	<p>配布資料 演習の課題と解答例</p>							
<p>第10週：標準原価計算(2) 標準原価計算の説明をした後で、次に、差異分析の具体的な計算方法を学習していきます。具体的には、直接材料費、直接労務費に関して差異分析を行います。</p>	<p>配布資料 演習の課題と解答例</p>							
<p>第11週：標準原価計算(3) 標準原価計算の説明をした後で、次に、差異分析の具体的な計算方法を学習していきます。具体的には、製造間接費に関して予算差異・操業度差異等の分析を行います。</p>	<p>配布資料 演習の課題と解答例</p>							
<p>第12週：直接原価計算(1) 直接原価計算は、短期利益計画目的において、利用される原価計算です。これは、原価を変動費と固定費とに区分して、売上高から変動費だけを差し引いて計算した限界利益を算定します。</p>	<p>配布資料 演習の課題と解答例</p>							
<p>第13週：直接原価計算(2) 直接原価計算の応用として、CVP分析を行います。CVP分析により、費用(C)と売上高(V)と利益(P)の関係を見ていきます。特に損益分岐点について学習します。</p>	<p>配布資料 演習の課題と解答例</p>							
<p>第14週：直接原価計算(3) 直接原価計算の応用として、CVP分析の公式を学習します。この公式により、目標営業利益を達成する売上高やCVPの感度分析を学習します。</p>	<p>配布資料 演習の課題と解答例</p>							
<p>第15週：工業簿記の勘定連絡図と財務諸表 工企業が会計年度末において外部報告用に作成する財務諸表には</p>	<p>配布資料 演習の課題と解答例</p>							
<p>第16週：期末試験 すべての講義に関して総復習の意味でのテストを行います。計算機の持ち込みはOKです。</p>	<p>配布試験資料 試験と解答例</p>							
<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">授業の運営方法</td> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「演習等形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td></td> </tr> </table>	授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」	(2) 複数担当の場合の方式		(3) アクティブ・ラーニング		
授業の運営方法		(1) 授業の形式	「演習等形式」					
		(2) 複数担当の場合の方式						
	(3) アクティブ・ラーニング							
備考								

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	大企業に勤めている会社員から「上司から原価を下げろといわれるが、どうしたらいいかわからない」という相談がありました。原価がわからないと、コスト削減はできません。まず原価への関心を持ちましょう。
【知識・理解】	次に、総合原価とは何か、どうやって計算するのか、といった基礎的な知識を身につけ、理解しましょう。そのためには、基礎的な用語に慣れ、理解することです。
【技能・表現・コミュニケーション】	大企業の方であれば、原価を元に、いくつかのコスト削減策を作成しましょう。種々の図や公式を理解し、使えるようにしましょう。
【思考・判断・創造】	最後に、適正な利益を入れた、「コスト削減計画書」を上司に提示し、説明し、原価が下がるようにしましょう。できれば、日商簿記検定2級の工業簿記に挑戦しましょう。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			15点	
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	30点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	20点	20点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			15点	
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	原則として、毎回講義の初めに課題を出します。提出をもって出席に代えますので、遅刻せずに課題を解いて提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル:達成目標を満たしている。Aレベル:ほぼ満たしている。Bレベル:なんとか満たしている。Cレベル:一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	授業の中で適宜質問します。質問に対する解答については、成績評価において加点することがあります。